

わか草



第52号 令和元年10月11日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

和太鼓演奏会



和太鼓演奏の様子

令和元年六月十六日曜日、午後二時から通所デイルームで和太鼓演奏会がありました。昨年「飛翔（ひしょう）／飛響（ひびき）」の皆様の演奏会でした。総勢十六人による迫力あふれた演奏でした。合間に太鼓の説明を受けるなど、楽しい一時を過ごすことができました。最後に晴天下、屋外療育場で演奏していただきました。病棟にいる利用者一人ひとりに和太鼓の音色が届いたと思います。

（療育部）



飛翔（ひしょう）／飛響（ひびき）の皆様



通所利用者避難搬送

九月十一日水曜日、当センター全体を対象に総合防災訓練を行いました。緊急地震速報が入り、直後に東京湾北部付近を震源とした震度六強の都心南部直下地震が起るという想定で実施しました。

当日の昼には通所と病棟で非常食体験訓練を行い、スムーズな介助ができていました。

利用者ならびにご家族の方のご協力に感謝いたします。

今回は、このところ多い台風被害も視野に入れました。

地震後に警戒レベル三の高潮警報が発令された想定で、利用者を一階通所から二階プレイルームへ避難搬送する訓練を行いました。迅速に搬送することができました。

また、ライフライン停止による人工呼吸器の電源確保のための非常用予備電源への接続及びポータブル発電機稼働訓練なども行いました。

訓練終了後の反省会では、様々な課題が洗い出されました。今後の会議で検討していきます。

防災訓練時には非常放送が入るなど、ご迷惑をお掛けしますが、災害時に備える大事なものですので、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

（防火・防災対策委員会）



消火栓取扱い訓練



ポータブル発電機稼働訓練

総合防災訓練

チームワーク

くみんなだからできるく

理学療法士主査 小山 久仁子

当センターでは、理学療法士（以下PT）は個別理学療法の時間に対象者と一対一でじっくり四十分間関わることができる。外来の利用者の場合は、付き添いのご家族も一緒である。

入所の利用者のように毎週会うことができる人もいれば二週間に一度、月に一度、年に1〜2回しか会えない人もいる。「もっと頻度を増やして欲しい」という要望をよく耳にするし、PTとしても理学療法の頻度は週に1回だったとしても足りないと考えている。しかし、毎日お呼びするわけにもいかない。その時間的余裕は、現状では私たちPTにも、対象者にもない。ではどうすれば良いのかと常々考える。

対象者にとってPTと一対一で過ごす時間は、ごく短時間である。それ以外の時間には学校で勉強したり、お友達と遊んだり、食事や入浴などをしたり、余暇を過ごしたり、休息したりという生活がある。それらを家族や他の専門職の援助を得ながらしている。重症児（者）は食事や排泄、呼吸の支援や吸引など、ほかにも時間のかかるケアが必要で、ご家族は睡眠時間も少ない中、貴重な時間を割いてリハビリテーションのために通院してくれている。せつかく来てくれているのだから、有意義な時間となるように全力で関わる四十分。一組一組違ったやりとりが続く時間である。利用者にとって楽しい時間になって、帰る頃には来た時

よりも体は疲れていても気分が元気になっていると良いのだけれど、また来たいと思ってくれると良いのだけれど、どうだったのかなと毎回振り返る。

PTは理学療法室で実現できたよい運動やその人に必要なよい刺激を日常生活に汎化したいと思っている。提供できているサービス時間でリハビリテーションの効果を最大限にしたいからだ。それは簡単なことではないし、PTだけの関わりでは不可能である。利用者やご家族の協力はもちろんのこと、通園や学校や訪問看護などの他の関連機関の多くの職員との協力が不可欠である。入所通所の利用者の場合は、直接PTがセンター内の職員に伝えることができるが、外来の利用者の場合は、コーディネーター役を親御さんをお願いすることが多い。

PTは対象者の様子をみて、体に触れてわかる情報、話を聴いて得られる情報から、その利用者の目標に応じて、理学療法の時間に必要なことを伝える。伝えるのは言葉のこともあるし、実際にその日のお子さんとのやりとりの中で感じてもらいながら伝わっていく内容もある。私は、その利用者に伝えたいことが数え切れないほどあっても、生活への負担をできるだけかけないような実現可能な内容を吟味して伝えるようにしている。

元気になるためにリハビリテーションを受けているのに、消化不良になりそうな山盛りの課題を押し付けられたら本末

転倒なので、どういう内容をどのくらい伝えるか、わかりやすく伝えるかを大切にしている（私も膨大な仕事を目の前にすると絶望的な気持ちになるので、そうした時の気持ちはよくわかる）。そして次の回にはそれを確認する。

「前回来た時の悩みは解決したのかな？ 通園の職員にうまく伝えてきたのかな？ うまくいったようだから次の目標は何かな？ 他に困っている場面はないのかな？ うまくできなかったのはどうしてかな？ このやり方なら実現できるかな？」

と自問自答しながら、今、目の前にいる利用者のことだけでなく、その人に関わっている人たちのことやその利用者の生活空間、生活時間を思い描く。理学療法の時間だけでは足りないのである。生活時間に当たり前のよう理学療法のエッセンスが少しづつ取り入れられたら、負担なく良い刺激が継続できる。それが理想なので、協力者（よき理解者）を増やすという方法をとりたいたいのだ。

私の担当のSくんのお父様が「障がい児は社会の子」とおっしゃっていた。「みんな育てればいい。」その通りだと思ふ。そのお父様は、お子さんをとて大切に育てていらつしやる。その上でさらに、協力者を増やすことを大いに実践されている優れたコーディネーターである。重症児（者）を育てていくための労力は並大抵のことではないので、このようによき理解者を周りに増やしていくて欲しい。

ただし、その協力者たちがバラバラな方向を向いていては残念である。協力者

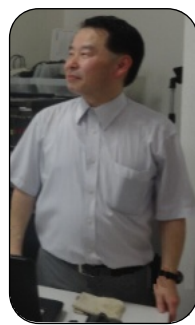
同士が直接会う機会がないとしても、その利用者を介して他の協力者の存在とその役割を知りながら、大きな同じ目標に向かって力を発揮して欲しい。自分の役割に専念しながらも、時にはサポートをする。個々の協力者は、その利用者にとっての自分の役割をしっかりと認識し、他に関わっている協力者たちの存在を意識して分担しながらも助け合うチームワークが大切だと考える。

Sくんのお父様からは、新しいホームページがSくんを担当することになると「抱っここの仕方を教えて欲しい」と必ずリクエストがあった。抱っこは座位の練習の要素をたくさん含んでいるので、長い時間関わるホームページが抱っこの技術を知っていれば、Sくんにとってよい座位姿勢の機会を増やせるのである。こんな風にSくんのお父様はチームSの一人一員である。

当センターには、事務、診療部、療育部、地域療育支援室などの部門があり、それぞれ多くの職種が仕事をしている。その一人一人がお互いの役割に敬意を払い、尊重し、役割分担しつつも助け合っていて、自分の役割に自信をもって、利用者に関わっている。補装具の修理や作製の時には区や都の担当の方々にもお世話になる。学校の先生や訪問看護などそれぞれの利用者に関わる他機関の職員にも度々支えてもらっている。その人たちが良いチームとして機能しているからこそ、私が理学療法の時間四十分を専念できているのだ。

この場をお借りして、皆さまいつもありがとうございます。

第三十一回医局講演会
重症心身障害児者
解剖例の病理学的解析



林雅晴教授

九月十日火曜日淑徳大学看護栄養学部
林雅晴教授をお迎えしてご講演いただきました。

先生は都立府中療育センターにおける
長年のご経験を提示され、診断、治療対
応における直接的貢献とともに、医学的
な「知恵」の蓄積に係る臨床面と、広く
医学の進歩に貢献する研究の両面から病
理学的検査の重要性を指摘され、解剖さ
せていただいた新しいことがわからなかつ
た方は一人もなかった、と結論されまし
た。聴講者も病理学的検査の大切な点を
再認識させていただきました。
(院長 加我)

第三十二回医局講演会
重症心身障害児の発達理解と評価

九月十七日火曜日、英国Dundee大
学のKirstie Rees博士とオーストラ
リアMacquarie大学 Kathleen Tait
博士をお招きして医局講演会を開催
しました。

Rees先生は重症心身障害児の発達
の理解と促進、Tait先生は重症心
身障害児への積極的な関与の評価に
ついて講演されました。
重度知的障害児、重症心身障害児



Kirstie Rees博士



Kathleen Tait博士

の発達を促すための関わりは私たち
の日々の臨床と共通の課題であり、
理解を深めあうことができました。
(院長 加我)

第十三回ヨーロッパ
小児神経学会に参加して



第十三回ヨーロッパ
小児神経学会にて

九月十六日から二十一日まで
でアテネで開催された右記学
会に出席し、骨髄移植治療後
二十年以上を経過した副腎白
質ジストロフィー症例の予後
と生活の質について報告を行
いました。
本学会には世界各地から千
五百名が参加し、最新の研究
成果や小児神経学領域のトピッ
クスが報告され、魅力的な学
会でした。
(院長 加我)

第六十一回日本小児神経学会

(愛知県・名古屋市)

五月三十一日から六月二日まで名古屋国際
会議場にて第六十一回日本小児神経学会が開
催されました。「多様性が支える小児神経学」
をテーマとして多職種との緊密な連携の重要
性が強調されました。
当センターからはレット症候群類似の臨床
像を呈し、新規の遺伝子変異が判明した男児
例を山本晃子医師が報告されました。
今後とも遺伝子検査の精度や技術が上がるに
つれて新たな疾患分類や疾患概念が生まれる
と思われまます。
(診療部 荒井)

第四十五回日本重症心身障害学会学術集会

(岡山県・岡山市)

九月二十から二十一日に岡山県岡山コンベン
ションセンターにて第四十五回日本重症心
身障害学会学術集会が開かれました。当セン
ターからは医局および療育部からそれぞれ四
演題、リハビリテーション科から三演題、薬
剤科から一演題の計十二演題が発表されまし
た。

「重症心身障害児(者)における栄養上の諸
問題」と題されたランチョン講演のなかで、
経腸栄養の利用者は蛋白摂取量が不足してい
ることが多いため吸収されやすい中鎖脂肪酸
(MCT)を用いることで効率よくエネルギー
を消費させ蛋白合成の促進につなげることが
大切であるとの報告がありました。安全な脂
肪酸であるMCTの新たな可能性を知る貴重
な講演でした。
(栄養科 浦川)

～ 給食の紹介(栄養科) ～

<< 調理いろいろ ～下ゆでをする～ >>

調理加工の第2ステップは「下ゆで」です。

	目的
野菜	野菜のアク(不要・不快な風味=ミネラル類)を取り除く 軟かくする(食物繊維対策) 野菜中の水分を除去し、調味液が浸透しやすくする
肉・魚	肉・魚の臭みを除去する 調味液を浸透しやすくする 肉・魚のアミノ酸(旨味)の流失を防ぐ

- 炭水化物が多い野菜は「蒸ゆで(少ない水で、鍋蓋をして加圧する)」をすると炭水化物が糖化して甘くなります。
- 繊維が多い葉野菜は、ゆで過ぎるとかえって繊維が強調されて硬く感じますから、注意が必要です。
- 「ゆで水」をこぼしてから調味水(出し汁)を加えて調理をすることが基本です。

沸騰したたっぷりの「ゆで水」で短時間の内にゆでると、ビタミンの損失が防げますが、当センターでは、軟かくするために「蒸ゆで」にする場合が多いようです。

